

音楽科学習指導案

指導者 尾道市立日比崎小学校

- 1 学年 第4学年 35名
- 2 題材名 日本の楽器の音色やリズムの特徴を感じ取り、オリジナルの「ええじゃんSANS A・がり」をつくろう
～台湾の友達に「尾道」のお祭りの音楽を紹介しよう～
- 3 教材名 「高千穂の夜神楽」「葛西ばやし」「ソーラン節」「正調尾道三下がり」
日本民謡
「ええじゃんSANS A・がり」 丹内真弓 編曲（正調尾道三下がり）
- 4 題材の目標
- 我が国や郷土の音楽に関心を持ち、仲間と協働して行う音楽表現や音楽づくりに主体的に取り組む。
 - 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、どのような音楽をつくるのかについて思いや意図、見通しをもって音楽をつくる。
 - 音色に気を付けて、リコーダー及び打楽器を演奏する。
 - 我が国や郷土の音楽の楽器の音色やリズムの特徴を感じ取りながら聴く。
- 5 指導事項
- 学習指導要領との関わり
第3学年及び4学年
- 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。 【A表現(3)イ】
 - 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。 【A表現(2)ウ】
 - 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。 【B鑑賞(2)イ】
- [共通事項] (1) ア (ア) 音色 リズム 速度 強弱
(イ) 反復

本題材で育成する資質・能力 ～ 思考力・表現力・主体性・積極性

(1) 題材観

本題材は、我が国や郷土の音楽に関心を持ち、音を音楽に構成する過程を大切にしながら、思いや意図、見通しをもって音楽づくりを行うことを主なねらいとしている。

本題材では、尾道に伝わる民謡「正調尾道三下がり」をアレンジした「ええじゃんSANS A・がり」を扱う。「民謡」は、民衆の生活の中から自然に生まれ、口伝によって受け継がれてきたものである。生活の違いによって使われる楽器やリズムなど、特徴に違いが生まれ、その地域独特の音楽を生み出している。また、最近では、「民謡」をアレンジした楽曲を用いてお祭りを行うなどして、地域の活性化につなげる取組が全国各地で行われている。

尾道市においても、尾道みなと祭りや、「ええじゃんSANS A・がり」が演奏され、尾道市内の各学校が「ええじゃんSANS A・がり」に合わせて踊りを披露するなどして、この曲に親しんでいる。しかし、民謡「正調尾道三下がり」については、児童はあまり触れていない。

本題材では、現代風にアレンジされた「ええじゃんSANS A・がり」の間奏部分のリズムをつくるにあたって、原曲の民謡「正調尾道三下がり」を扱い、民謡のよさに気付かせる。さらに、他の民謡にもふれることで、我が国や郷土の音楽の楽器の音色やリズムの特徴をつかみ、「民謡」のよさを味わいながらも、現代風の音楽との融合をはかりながら、音楽づくりを行うことをねらいとしている。

(2) 児童観

本校では、毎年5年生が4月開催の尾道の「みなと祭り」の踊りコンテストに参加し、「ええじゃんSANS A・がり」の曲に合わせて創作した踊りを披露している。また、5月の運動会でもその踊りを地域・保護者に披露している。そのため、本学級の児童は、「ええじゃんSANS A・がり」の音楽を聴いたことがあると回答した児童は100%であった。「5年生になったらこの曲で踊るので楽しみだ。」という声もあり関心の高さがうかがえる。また、3年生の「よひゆきつこで森の音楽をつくろう」の学習では、リコーダーで即興的な音楽表現活動を行った際「即興的な活動が好き」という児童が、95%いる一方、「何をしたいのかよく分からない」と答えた児童が3%いた。どのような音楽をつくるのかについて思いや意図、見通しをもちながら音楽づくりを行う力を、本題材では付けていきたい。

(3) 指導観

指導にあたっては、本校と交流している台湾の北園國民小學に、地域のお祭りの音楽である「ええじゃんSANS A・がり」を演奏してDVDを送るという最終目標のゴールを設定する。そのため、我が国や郷土の音楽の楽器の音色やリズムの特徴を感じ取らせたりしていく。

そして、「ええじゃんSANS A・がり」のリコーダーの旋律の合間に、太鼓などの即興的なリズムを入れて「このような曲に」という意図をもたせながらその実現に近づけるように活動を仕組んでいく。その際、自分らしさを表現できるように、音色やリズムだけでなく速度、強弱等にも着目させるよう視点を与えておく。

さらに、グループで考えた自分達のイメージする表現を最終的に口づかないで、学級の「ええじゃんSANS A・がり」をつくっていくことを伝えておく。これらの活動を通して、日本のお祭りの音楽に合うようなリズムを即興的に表現する力をつけさせるとともに、仲間と協働して音楽をつくっていく楽しさを感じさせたい。

6 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①我が国や郷土の音楽の楽器の音色に気を付けて演奏したり、思いや意図をもって音楽をつくったりする学習に進んで取り組もうとしている。 ②我が国や郷土の音楽の楽器の音色やリズムの特徴に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。	①音を音楽に構成する過程を大切にしながら、どのような音楽をつくるのかについて思いや意図、見通しをもっている。	①我が国や郷土の音楽の楽器の音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏している。 ②我が国や郷土の音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音を音楽に構成している。	①我が国や郷土の音楽の楽器の音色やリズムの特徴を感じ取りながら聴いている。

7 育成しようとする資質・能力とのかかわり

【思考力・判断力・表現力】

- ・我が国や郷土の音楽の音色やリズムを感じ取りながら音楽を鑑賞する力
- ・我が国や郷土の音楽の特徴について感じ取ったことを、共通点や相違点に着目し、言語化して表現する力

【主体性・協働性】

- ・グループのテーマを決め、自分の考えを述べたり友達の考えを聞いたりしてテーマに合う音楽を協働してつくる力

8 題材の計画（全4時間）

次	時	教材	学習活動	評価規準（評価方法）
第一次（二時間）	第一時	「高千穂の夜神楽」「葛西ばやし」「ソーラン節」「正調尾道三下がり」	<p>○本単元で我が国や郷土の音楽について学習することを知らせ、「ソーラン節」を聴く。</p> <p>・学習発表会で歌ったり合奏したりした曲の感じとは違うね。</p> <p>・日本の音楽と、他の国の音楽は感じが違うね。</p> <p>・台湾の友達に、尾道の音楽を聴いてもらいたいね。</p> <p>・自分たちのオリジナルの「ええじゃんS AN S A・がり」をつくって聴いてもらおう。</p> <p style="text-align: center;">課題の設定</p> <p>～台湾の友達に「尾道」のお祭りの音楽を紹介しよう。～</p> <p>【学習課題】台湾の北園国民小學の4年生に向けて、オリジナルの「ええじゃんS AN S A・がり」をつくらう。</p> <p style="text-align: center;">情報の収集</p> <p>○自分たちで音楽をつくるという単元のゴールに向けて、我が国や郷土の音楽の特徴を見つけるために、「高千穂の夜神楽」「葛西ばやし」「ソーラン節」「正調尾道三下がり」を鑑賞する。</p> <p>・鈴のような音が聞こえるね。何の楽器だろう。</p> <p>・「高千穂の夜神楽」と「葛西ばやし」は使っている楽器が違うね。</p> <p>・「葛西ばやし」は細かい音が使われていて、にぎやかな感じだね。高く聴こえる太鼓の音は締め太鼓の音なんだね。</p> <p>・「ソーラン節」の和太鼓が和太鼓クラブの「龍神太鼓」に似ているね。</p>	
			<p>エー①（ワークシート・行動観察） ア②（ワークシート・行動観察）</p>	

第二次(三時間)	第二時	「ええじゃんSANS A・がり」	<p>○「ええじゃんSANS A・がり」を聴き、前時に聴いた「高千穂の夜神楽」「葛西ばやし」「ソーラン節」「正調尾道三下がり」との共通点や相違点を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太鼓が使われているね。「ドード」というリズムは、「ソーラン節」に似ているね。和太鼓クラブの「竜陣太鼓」のリズムにも似ているよ。 <p>○大太鼓のリズムの例を示し、曲に合わせてリズム打ちをさせる。</p> <p>○「ええじゃんSANS A・がり」の旋律を歌ったり、リコーダーで演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シーラシ」の「シ」の音を強く演奏すると、踊っている感じになるね。 ・始めの休符(8部休符)を心の中で「ウッ」と感じるとかっこよく演奏できるよ。 ・台湾の友達にDVDを送るのが楽しみだな。 	ウー①(行動観察)
	第三時	「ええじゃんSANS A・がり」	<p style="text-align: center;">整理・分析</p> <p>○グループに分かれて、「ええじゃんSANS A・がり」のリコーダーの旋律の間に、太鼓などのリズムをつける。</p> <p>○グループのテーマに合うようなリズムになるように工夫してリズムや演奏の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕たちはグループのテーマを『元気よく』にしたよ。カスタネットで「カッカッ」と合いの手を入れると弾む感じが出て元気よく聞こえるよ。 ・小さい音で演奏すると、穏やかな感じになって、リコーダーのメロディーが引き立つね。(テーマ:おとなしい感じ) <p style="text-align: right;">本時(3/4)</p>	イー①(行動観察) ウー②(行動観察)
	第四時	「ええじゃんSANS A・がり」	<p style="text-align: center;">実行</p> <p>○それぞれのグループの音楽をつなげ、学級の「ええじゃんSANS A・がり」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習をしてから録画したいよ。 ・テンポが変わると、演奏しにくいね。 ・リコーダーの部分は、同じ速さで演奏しよう。 ・DVDで撮って台湾の友達に送るので、下を向かずに演奏しよう。 ・いろいろなグループの間奏があると、聴いていて飽きないね。 ・終わり方を工夫したいね。 ・台湾の友達に早く聴いてもらいたいな。尾道の音楽を聴いた感想も知りたいよ。 	アー①(行動観察) ウー②(行動観察)

9 本時の展開 (3/4時間)

(1) 本時の目標

音を音楽に構成する過程を大切にしながら、どのような音楽をつくるのかについて思いや意図、見通しをもつ。
【音楽表現の創意工夫 イー①】

(2) 学習の展開

	学習内容と学習活動 (○) 予想される児童の姿 (・)	指導上の留意点 (○) つまずきへの支援 (・)	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 課題意識をもつ。 ○前時に演奏した「ええじゃんSANS A・がり」の旋律をリコーダーで演奏する	・音名唱をさせてから演奏させる。 ○台湾の北園国民小學の4年生から届いたビデオレターを見て、活動への意欲を高める。 ○単元のゴール、台湾の北園国民小學の4年生に「ええじゃんSANS A・がり」を演奏したDVDを送ることを確認する。	
	2 学習課題を確認する。		
「ええじゃんSANS A・がり」のリコーダーの旋律の合間に、打楽器でリズムを入れよう。			
考える	3 学習の見通しをもつ。 ○打楽器のリズムのつくり方を確かめる。 ①4小節のリズムをつくる。 ②和太鼓・締め太鼓・カスタネット・鈴の4つの楽器でリズムをつくる。 ③どのような感じにしたいか、グループのテーマを決める。 ④発表する時の楽器の分担を決めて練習する。	○リズムづくりの流れを提示し、見通しを持って学習に取り組ませる。 ○和太鼓のリズムは、2つのパターンから選んで組み合わせることを確認する。	イー① (行動観察)
	4 グループに分かれて相談し、リズムを考え、演奏する。 ○グループのテーマに合うようなリズムになるように工夫することを確認する。 ・カスタネットで「カッカッ」と合いの手を入れると弾む感じが出るね。(テーマ:元気のよい感じ) ・小さい音で演奏すると、穏やかな感じになって、リコーダーのメロディーが引き立つね。(テーマ:おとなしい感じ)	○「ええじゃんSANS A・がり」の拍子やテンポに合わせてリズムを考えさせる。 ○まず、和太鼓のリズムを考えるように助言する。 ・リズムをたたけない児童には、教師と一緒にたたいて支援する。 ・グループの楽譜は大まかに簡単に書けばよいことを確認する。	
繰り返し まとめる	5 お互いの演奏を聴き合う。 ・○○グループの演奏は、弾むような感じで、楽しい気持ちになりました。 ・大太鼓がしっかり拍をたたかないと、グループのリズムがそろわないので、頑張ってください。 ・鈴が、小節の間に挟まっているので、合いの手みたいになって、にぎやかになっていたと思います。	○聴く児童には、グループのテーマを踏まえて、よかったことやアドバイスしたいことを伝えるように助言する。 ・リズムをたたけない児童には、教師と一緒にたたいて支援する。	
	6 本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。	○本時のめあてを振り返り、ワークシートに記入させる。	
児童のまとめ例 グループのテーマに合うように、元気のよいリズム演奏ができた。次は、息を合わせて演奏したい。			
		・次回は、それぞれのグループの音楽をつなげ、学級の「ええじゃんSANS A・がり」をつくることを知らせる。	